

主体的に学習に取り組む態度を評価する単元構想 リフレクションシート（商業科「原価計算」）

単元名：2年生 第5編 第1章「標準原価計算の目的と手続き」（全4時間）

単元構想と実践を通して評価改善・授業改善や授業デザインの方策を提案する視点に立って振り返りを行う。

単元構想のリフレクション（研究仮説と手だての有効性の検証）	
単元を通した構想の振り返り（仮説の検証）	・最初は教科書の記述や指導の内容を複写することが多かったものの、標準原価カードを作る段階では、課題内容についての解釈をグループ内に伝え、正しい目標に向かって学習を進めることができるようになった。「科学的・統計的」な考え方に触れ、深く考える様子が見られた。実践課題中は全ての生徒が意欲的に取り組み、成果を出そうとした。時期としては標準原価計算の内容は2学期期末考査の範囲が適切であると考ええる。
主体的な学びを評価する手だての有効性の検証	・ロイロノートによって課題を提示し、結果や感想を提出させるように変更した。授業後の時間帯に返信した内容は、生徒の空き時間に確認閲覧できるようになった。授業開始前までに確認するように習慣づける必要はあるものの、フィードバックの速度が向上した。これまでと違う取組で集中して解答することができた。授業後に提出させた振り返りシートから、自ら主体的に学びを進める姿勢を引き出せていると考える。
対話的な学びを評価する手だての有効性の検証	・ブロックを用いた軽作業によって標準直接作業時間を算出させる過程で、一番効率的な時間を推定する際、測定方法について議論の中で方向性を定めた。グループで協力して作業を進めることができた。各グループを巡回する中でそれぞれのグループを3分程度観察し、自発的行動や所作、発言によって、生徒が実践している対話的な学びを評価した。
深い学びを評価する手だての有効性の検証	・一度完成させた標準原価カードについて、本当に無駄が無いのか一度指摘し、考え直すように指導した。生徒は指摘された内容を理解できず議論や行動が停止したものの、改善するためにどうすべきかを問いかけ、物品を扱いやすいように整列することで、より効率を高める点に気付くことができた。深い学びについては記述させるだけではなく、試問を通じて学びの深さを測定する評価基準を設けて評価した。

単元構想の実践前と実践後において、生徒を3名程度抽出し、単元を通した学習への取組の様子や変容を比較し分析する。

抽出生徒の変容		
生徒	実践前の様子	単元終了時の様子
A	・集中力を欠き、授業に集中できない様子が見られる。学習に興味をもち、前向きな気持ちで学習に取り組んでほしい。	・「あまり理解できない」とのコメントはあったものの課題に対して「グループのみんなと相談して解くことができた」と前向きであった。
B	・他者に対して強く意見を言わず、受容的である。まじめに学習に取り組むことができる。 ・指導されたことを実践するだけでなく、自ら学ぶ意識を成長させたい。	・「作る分だけでは正確な計算にならない」という気付きから無駄が発生率や労務費の考え方などについてイメージしながら、考査問題や検定問題を解いていきたいという発言があった。
C	・クラスで考査の成績は上位の生徒。思慮深く考えて発言する。より広い視野をもって、学校生活とさまざまな点に関わり主体性を発揮してほしい。	・本単元を通じて、授業時間以外にももう少し理解を深めていくことで、他の計算にも生かすことができると考えている。他の分野に視野を移して活用を探っている。

実践を通しての課題
<p>時間をかけて工夫することに応じて生徒は理解を深め、より質の高い学びに結び付けることができた。より、正確な評価を行うためには主体的な取組についてのポートフォリオを継続して残していくことが必要である。今回の実践では4回の提出とフィードバックを行った。フィードバックには20人クラスで1回あたり、平均して1時間程度かかった。評価の時間については生徒20名につき1回あたり標準時間として1時間を確保するように工夫したい。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度を評価する単元構想として授業実践に取り組んだ。主体的な行動を促す授業展開は生徒の意欲を高め、互いに協調しながら課題に取り組む姿勢が見られた。また、教員の発問から課された課題についてより深く思考し、教科の枠にとらわれずに実生活に活用しようとする積極的な姿勢まで獲得させられると感じている。来年度以降も研究を進め、主体的で対話的で深い学びを追求していきたい。</p>